

浅間山

○火山活動度レベル（平成 18 年 5 月）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成 18 年 5 月）

火山性地震や火山ガスの放出量はやや多く、火山活動はやや活発な状態が続いています。
今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

表 1 浅間山 火山情報の発表状況（平成 18 年 5 月）

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 18 号 ～（毎週 1 回発表） 火山観測情報第 21 号	8 日 16:00 ～ 26 日 16:00	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火 映・地震・微動・地殻変動・火山ガス）。	2



図 1 浅間山 噴煙の状況（2006 年 5 月 25 日、鬼押出し遠望カメラによる）

※この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移しました（図 2－②、表 2）。10日未明には山麓の高感度カメラ¹⁾で捉えられる程度の微弱な火映²⁾が、2月6日以来およそ3ヶ月ぶりに観測されたほか、29～30日にも再び微弱な火映が観測されました。火口内は高温状態が続いていると推定されます（図 2－④、表 2）。

- 1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。
- 2) 上昇した溶岩や火山ガスにより火口内が高温になった場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

15日及び30日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり100～800トンと、依然としてやや多い状態が続いています（図 2－③、表 2）。

○地震および微動の発生状況

火山性地震は、日回数が21～50回と増減を繰り返しながらやや多い状態で経過しています（図 2－⑥～⑧、表 2）。発生した地震のほとんどは周期の長い特徴を持つBL型地震（波形例は図 5を参照）で、震源は求まっていますが山頂火口直下のごく浅いところに発生していると推定されます。また、BL型地震のほかに、周期の短い特徴を持つBH型地震（波形例は図 5を参照）も少数ながら発生しています。

火山性微動の日回数は0～2回と、やや多い状態で推移しています（図 2－⑤、表 2）。

○地殻変動の状況

山体周辺のGPS連続観測（図 2－⑨）では、深部へのマグマの注入によると考えられる山体膨張を示す水平距離の伸びは昨年6月以降認められていません。

このほか、傾斜観測³⁾や光波測距観測⁴⁾（図 2－⑩）でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

- 3) 傾斜計を用いて山体の膨張や収縮による地面の傾きを観測しています。
- 4) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。

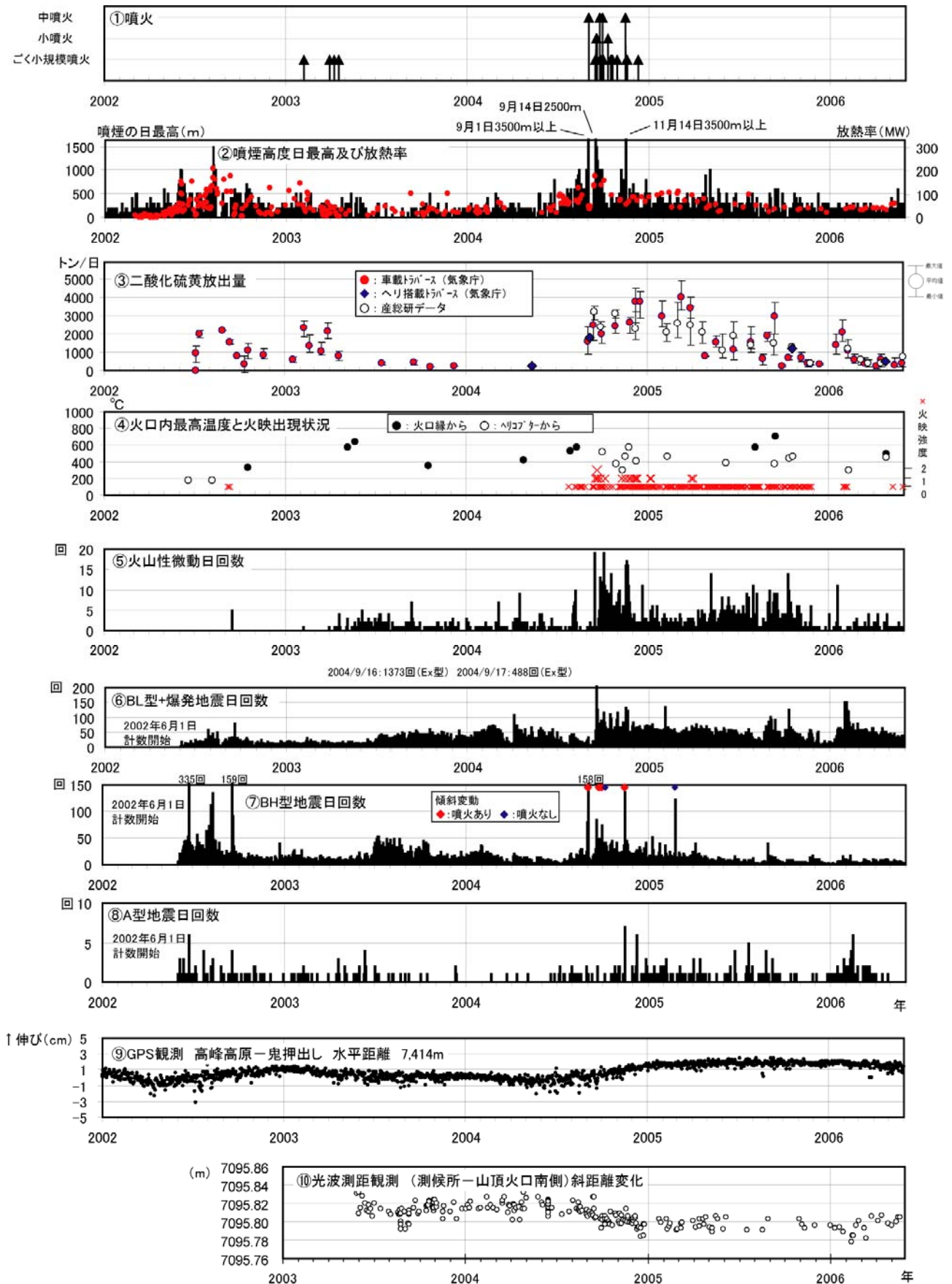


図 2 ※ 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002 年 1 月～2006 年 5 月)

- ・③の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。
- ・⑥、⑦及び⑧は、地震タイプ別 (図 6 参照) の計数を開始した 2002 年 6 月 1 日から掲載しています。

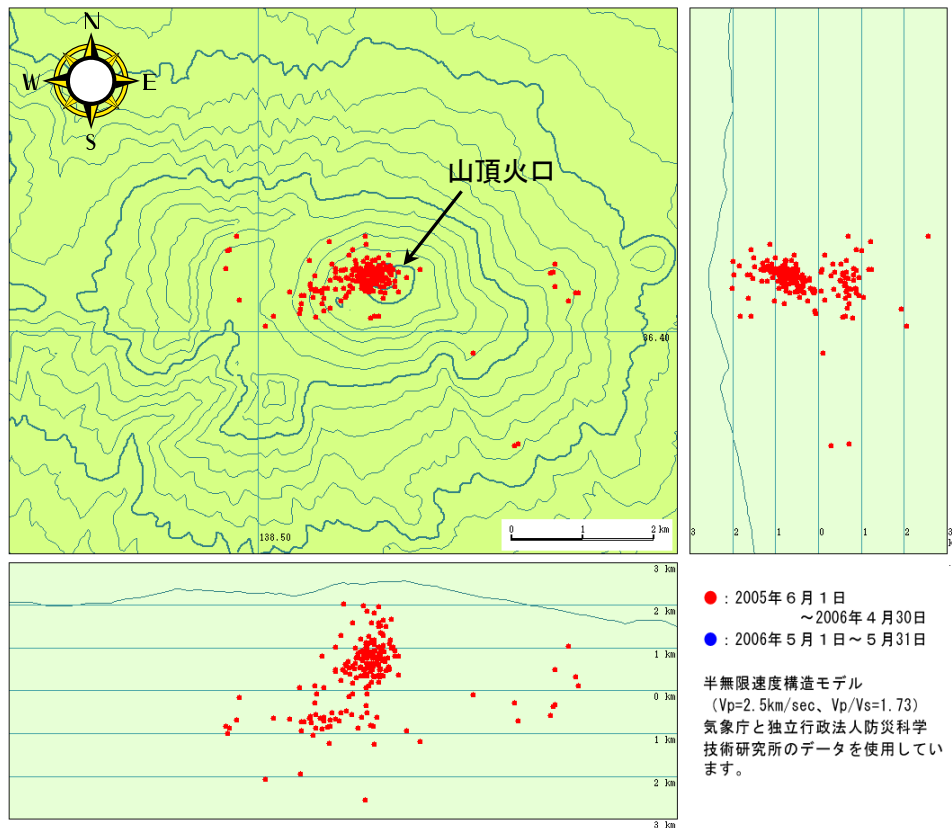


図3※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2005年6月1日～2006年5月31日）
今期間（2006年5月）に震源が求まった地震はありませんでした。

○観測点情報

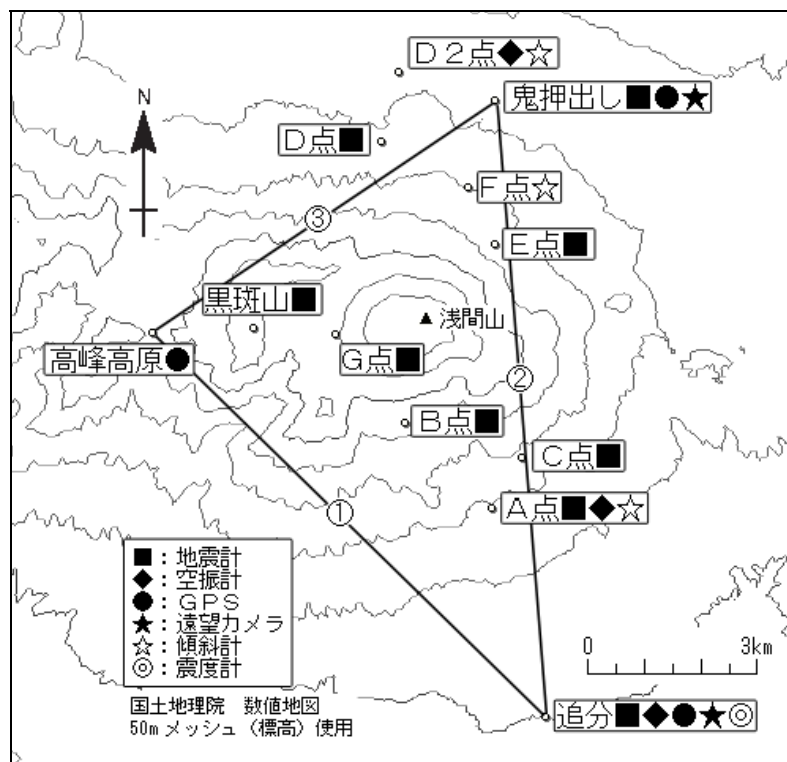


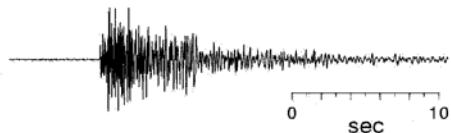
図4 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

表 2※ 浅間山 2006 年 5 月の火山活動状況

06年 5月	噴火の回数		火山性地震の回数 5)						微動 回数	噴煙の状況 6)		火映 強度 7)	備考
	中規模	小規模 以下	A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震 合計		日最高 (m)	噴煙量		
1日	0	0	0	5	28	0	3	36	0	200	1	—	
2日	0	0	0	6	44	0	0	50	0	X	X	X	
3日	0	0	0	1	46	0	0	47	1	300	2	—	
4日	0	0	0	4	39	0	1	44	1	400	2	—	
5日	0	0	0	6	32	0	0	38	1	100	1	—	
6日	0	0	0	1	20	0	0	21	0	100	1	—	
7日	0	0	0	5	28	0	1	34	1	X	X	X	
8日	0	0	0	8	41	0	0	49	0	X	X	—	
9日	0	0	0	3	33	0	0	36	0	200	2	—	
10日	0	0	0	2	45	0	0	47	1	X	X	0	
11日	0	0	0	7	33	0	0	40	1	100	1	—	
12日	0	0	0	5	24	0	0	29	0	200	2	—	
13日	0	0	0	3	26	0	2	31	0	X	X	X	
14日	0	0	0	3	28	0	1	32	0	200	2	—	
15日	0	0	0	4	31	0	1	36	0	100	1	—	SO ₂ 放出量:100~700トン/日。
16日	0	0	0	3	29	0	1	33	1	—	—	—	
17日	0	0	0	5	31	0	0	36	1	600	2	—	
18日	0	0	0	5	36	0	0	41	0	200	1	—	
19日	0	0	0	7	25	0	0	32	1	X	X	—	
20日	0	0	0	6	27	0	0	33	2	100	1	—	
21日	0	0	0	2	20	0	0	22	0	300	2	—	
22日	0	0	0	3	33	0	0	36	0	100	1	X	
23日	0	0	0	5	24	0	0	29	0	200	1	—	
24日	0	0	0	1	30	0	0	31	0	200	1	—	
25日	0	0	0	1	38	0	0	39	1	300	2	—	
26日	0	0	0	0	23	0	0	23	0	300	1	—	
27日	0	0	0	1	41	0	0	42	0	X	X	X	
28日	0	0	0	4	23	0	0	27	0	X	X	X	
29日	0	0	0	2	41	0	0	43	1	X	X	0	
30日	0	0	0	4	24	0	0	28	0	200	1	0	SO ₂ 放出量:200~800トン/日。
31日	0	0	0	2	38	0	0	40	0	200	1	X	
合計	0	0	0	114	981	0	10	1,105	13	600	2	0	

5) 計算基準：B点振幅0.1μm以上でS－P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

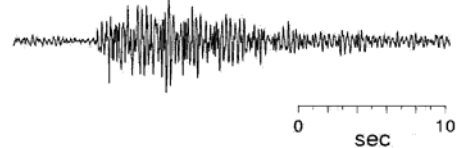
A型地震：P,S相が明瞭で卓越周波数は
10Hz前後と高周波の地震



BL型地震：P,S相が不明瞭で卓越周波数が
約3 Hz以下の地震



BH型地震：S相が不明瞭で卓越周波数が
約3 Hz以上の地震



EX型地震(爆発型)：爆発的噴火に伴って発生する地震

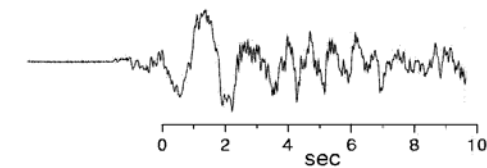


図5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

6) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測（09時・15時）の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

7) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度

1：肉眼でようやく認められる程度

2：肉眼で明らかに認められる程度

3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

—：火映なし

×：視程不良（終日観測できなかった場合）